

ブウツ、はいってくる。

宿屋の亭主 外はおさむかったでしょう、さぞ。——さア、火のそばへおよりください。

ブウツ ええ、ありがとう。

宿屋の亭主 ときにお腹はいかがです？——まだお夕飯まえじゃありませんか？

ブウツ ええ、まだです。——これからです。

宿屋の亭主 じゃア、すぐに仕度しとくを。——(かみさんに)おい、おまえ……

ブウツ (とめて) いいえ、いいんです。——たべるものはここに持っています。(かくしからちいさくたたんだテーブルかけを出す)

宿屋の亭主 それは？

ブウツ ティブルかけです。(いいながらテーブルの上にそれをひろげる)

宿屋の亭主 なるほど。——で、あがるものは？

ブウツ まだ、ぼくがなにをほしいともいわないから出て来やアしません。

宿屋の亭主 出て来ない？

ブウツ ええ。——ぼくが、いま、なにがたべたいと思うと、そのたべたいと思ったものがひとりでこのテーブルかけの上に出て来ます。

宿屋の亭主 お客さま、あなたお気はたしかですか？

ブウツ (わらって) だいじょうぶですよ。——ほんとか、うそか、みていればわかります。

宿屋の亭主 (かみさんのそばへよって) おまえ、そんなことができるものと思うかい？

宿屋のかみさん (首をふって) 思いませんわ。

ブウツ ラビット・パイと、揚げたじゃがいもと、塩づけのくるみと、ジャムのはいったプディングと、れもん水を一本と。——それだけ……

ブウツ、ティブルかけにむかってそういう。——みるまに、テーブルの上、それらのものでいっぱいになる。(じっさいにこれをやる場合には、とくにそういう仕掛けしかけをしなくても、黒か灰いろの衣裳いしやうを着た後見こうけんが、テーブルのうえにそれらを持って出ればいい。——もちろんその出かたには多少の工夫を要する)

宿屋の亭主 (ぎょうてんする) 出た。——出た。

ブウツ じゃア、ぼく、お腹がすいてますからたべます。(いすに腰をかけてたべかける)

宿屋の亭主 ふしぎだ。——実にふしぎだ。……

宿屋のかみさん ねえ、ほんとうのものかしら？